

石巻圏の地域ニーズに応えた 厚板精密切断加工技術

株式会社宝栄鉄工

事業テーマ ▶ 厚板鋼材精密切断加工技術の導入による荷役・重機設備等架装技術革新事業

◆現場でのきめ細かな対応力が厚い信頼に

株式会社宝栄鉄工は、石巻圏を主な営業エリアとして海洋土木鋼構造物をはじめ、港湾荷役会社の設備改修などを手掛けている。一般的に鉄工業は得意分野に特化して事業を展開するケースが多いが、同社では防潮堤建設における杭・矢板工事など金物に関する架設工事や、荷役機械や重機の架装・大規模改修、プラント用製缶工事など、幅広い分野に携わっているのが特徴だ。

「先代が鉄缶絡みでいろいろな仕事を請けてきたのがきっかけとなり、取扱分野の幅が広がりました」と語るのは代表取締役の相原政美氏。同社の強みは、顧客との長い付き合いによって蓄積されてきたノウハウと、依頼業務への深い理解度、そして現場での対応力にあるという。

「この業界はお客様の業務内容をしっかりと理解していないと難しい面があります。現場に出れば図面や工場内での組立作業からは決して見えてこない作業も出て来ますし、海洋土木や荷役関係の仕事では突発工事が多い上に要求も厳しい。現在も様々な分野のお客様からお声掛けいただいているのは、それに応えようという気持ちを積み重ねてきた結果でしょう」。

荷役機械や重機の架装などの案件で現場に出る際には、単に組立や架設工事を行うだけでなく、顧客が使う機器や設備の使用状況を見極め、より効率的に作業ができるように調整や改修も行う。こうした現場での対応力は顧客からの厚い信頼に結び付いている。

◆厚板鋼材精密加工におけるリードタイムの短縮

石巻圏を中心に事業を展開する同社にとって、荷役設備・重



機の更新や改修といった案件は経営基盤を安定化させる事業の柱となっている。その一方、近年では厚板鋼材の精密切断加工の要求が増え続けており、その対応が同社の課題となっていた。

同圏における中小規模の鉄工所では、プラズマによる精密切断加工ができる鋼板の厚さは25mm未満が限界であり、厚板鋼材に不具合や加工不良が発見された場合には関東地区に厚板鋼材を送って修復加工が行なわれていた。

それに伴うリードタイムは、納期の長期化、輸送コストと外注先加工費の増加、取引先の不満足に結び付いてしまう。同社ではこうした課題を解決するため、厚板鋼材加工のための技術を確立することを目指し、ものづくり補助金を活用した。メーカーの担当者には加工要件を詳細に伝え、最適な加工能力を有したツイスター加工機TFP3051α長寿命仕様や、パワーアップキット、集塵機、ヒューム固化装置を導入した。

◆石巻圏の地域ニーズを取り込むことにも成功

加工機の導入は、切り板と呼ばれる厚板加工の地域的需要もきっかけとなった。従来、石巻圏の同業他社では、厚板の切断加工を他県の企業に発注していたため、納品まで最短でも3～4日を要していた。同社では今回の加工機導入によって切り板の需要を取り込むことに成功している。

「極端な話、タイミングが合えば即日出荷も可能です。通常は問屋を通して厚板の搬入・搬出を行いますが、お客様の中には問屋を経由するのが待ちきれず、直接取りに来られる



様々な形状に精密加工が可能



ツイスター加工機

方もいらっしゃる」。

切り板という業務はその性質上、外注としての受注が中心となる。そのため顧客からの発注は同業他社に分散し、同社本来の仕事が減るというケースも考えられるが、相原社長は地域全体を見据えて事業を展開していくという。

「全部うちで」と案件を独占するよりも、この地域全体から当社に仕事が入ってくることが大切です。石巻圏の同業他社の業績が良くなれば、我々も自ずと良くなりますから」。

◆厚板鋼材加工拠点として石巻工業港の機能向上を

現在同社では、加工テストや切り板をはじめとする厚板加工で得られた情報を元にして、厚板鋼材を精密切断加工する工程の技術仕様書を作成中だ。また、生産技術の標準化と合わせて納期面での優位性を高めるために、生産計画および生産管理業務のIT化を進め、顧客の納期を確実に満たせる体制の確立を目指している。

この動きと並行して、港湾荷役会社のほかに、鋼材や重機メーカー、取扱店に対してのアピールも開始した。顧客が同社を訪れた際には実際に加工機を稼働させて相原社長自らが案内役を務めている。同社の技術を広く浸透させながら、技術確立の

メリットを顧客に伝えるため、加工写真や実績を交えたレポートの作成にも取り組んでいくという。

「当社が厚板鋼材の加工拠点として機能することで、石巻工業港の荷役能力の維持に貢献していきます。今後は製缶や土木工用鋼材にもこの技術を応用し、ゆくゆくは石巻の産業復興の一端を担えればと考えています」。

会社概要

会 社 名	株式会社宝栄鉄工
代 表 者	代表取締役 相原 政美
所 在 地	宮城県石巻市門脇字明神48-1
資 本 金	1,000万円
従 業 員 数	3名
業 種	製造業
設立年月日	平成2年10月1日
TEL	0225-84-1211
FAX	0225-84-1811
EMAIL	houei@wing.ocn.ne.jp
URL	_____



現場作業を大切にしながら人材育成を

製缶・土木・重機それぞれの技術を様々な案件に応用できるのが当社の強みです。これは現場作業で培ってきた部分が非常に大きいということもあり、現場作業は今後も力を入れていきたい部分だと考えています。現場が分からなければ、工場で作っているものが何に使われるかを知ることができません。ただ造るのではなく、自分が手掛けている仕事の意味を知ることやはり大切だと思います。

また、この業界でも機械化が進む一方で、現場ではどうしてもガス切り、溶接などの手作業が必要な場合が出てきます。ですから手作業がしっかりとできる人材を育てていくのも私の目標であり役目だと思っています。もちろん、私自身も現場に出ていますので、手取り足取りで教えながら仕事の取りかかり方や考え方を身につけてもらいたいと考えています。



代表取締役／相原 政美 氏